

授業概要

本演習の目的は、「日商簿記検定 2 級」の合格レベルに達することです。受講条件として「中級簿記」を履修し単位取得した学生です。春期は、日商簿記 3 級の復習を指導します。仕訳と転記、帳簿組織、合計残高試算表、精算表作成などを学びます。秋期は工業簿記を行います。内容は、費目別、部門別、個別原価、総合原価、標準原価、直接原価計算を習得します。授業は、日商簿記検定の統一試験（6 月、11 月、2 月）に沿った進度で行います。なお、常時受験可能な日商のネット受験も推奨します。エクステンションセンターの「日商簿記検定 2 級講座」と並行して受講すること。

授業計画

|        |                     |        |                     |
|--------|---------------------|--------|---------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス：勉強方法&小テスト実施   | 第 16 回 | ガイダンス：勉強方法&小テスト実施   |
| 第 2 回  | 日商簿記 3 級商業簿記：目次の体系化 | 第 17 回 | 日商簿記 2 級工業簿記：目次の体系化 |
| 第 3 回  | ①論点：商品売買、精算表作成      | 第 18 回 | 費目別計算 ①材料費          |
| 第 4 回  | ②論点：現金預金、精算表作成      | 第 19 回 | 費目別計算 ②労務費          |
| 第 5 回  | ③論点：手形取引、精算表作成      | 第 20 回 | 費目別計算 ③経費、勘定連絡      |
| 第 6 回  | ④論点：その他取引、試算表作成     | 第 21 回 | 個別原価計算 ①直課          |
| 第 7 回  | ⑤論点：商品有高帳、試算表作成     | 第 22 回 | 個別原価計算 ②予定配賦        |
| 第 8 回  | ⑥論点：伝票会計、試算表作成      | 第 23 回 | 個別原価計算 ③部門別         |
| 第 9 回  | 中間試験                | 第 24 回 | 中間試験                |
| 第 10 回 | ①決算整理、B/S、P/L 作成    | 第 25 回 | 総合原価計算 ①単純総合原計      |
| 第 11 回 | ②決算整理、B/S、P/L 作成    | 第 26 回 | 総合原価計算 ②工程別原計       |
| 第 12 回 | ③決算整理、B/S、P/L 作成    | 第 27 回 | 総合原価計算 ③組別・等級別      |
| 第 13 回 | ④総合問題 精算表           | 第 28 回 | 標準原価計算 ①原価標準        |
| 第 14 回 | ⑤総合問題 精算表           | 第 29 回 | 標準原価計算 ②差異分析        |
| 第 15 回 | ⑥総合問題 精算表           | 第 30 回 | 直接原価計算・CVP 分析       |
| 春期     | 定期試験                | 秋期     | 定期試験                |

到達目標

- ・中級レベルの商業・工業簿記を習得し、「日商簿記 2 級」合格レベルに到達すること。

履修上の注意

- ・正課授業の「管理会計論」「原価計算論Ⅰ」、「原価計算論Ⅱ」、「環境会計論」を履修登録する。
- ・エクステンションセンターの「日商簿記検定 2 級講座」を受講のこと。
- ・月例試験による座席指導入。
- ・就職試験に関する指導を行います。例）ニュース検定試験、SPI テストなど実施します。

予習復習

- ・毎日、3 時間は簿記の問題集を練習すること。日商簿記 2 級合格レベル達成の学習時間は約 400 時間。
- ・OutLook 予定表（カレンダー）に日々の学習時間を記録し、時間管理の徹底をすること。

評価方法

- ・中間試験 50%・定期試験 50%で評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

- ・教科書名：2022 年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 「時事力」基礎編(3・4 級対応)
- ・著 者 名：日本ニュース時事能力検定協会 （監修）
- ・出版社名：毎日新聞出版

## 授業概要

コロナ禍にある現下の日本および世界では、経済、社会、産業そして企業経営の面で大きな変革が進展しており、新しい経済社会の姿が構築されつつあります。この演習では、日本および世界経済、産業動向、企業経営、社会生活などの分野において現在進行しているトレンドを理解することによって、皆さんが社会人になるうえでの基礎的な知識を身に着けることを目的とします。各回のゼミでは、ゼミ生全員がテキストの指定箇所を事前に読んできて、事前に割り振られた担当の学生が報告資料を作成したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

## 授業計画

|        |                        |        |                 |
|--------|------------------------|--------|-----------------|
| 第 1 回  | この演習で学ぶこと              | 第 16 回 | 企業経営 ―東証再編―     |
| 第 2 回  | 新型コロナ禍を克服し、経済の再生へ      | 第 17 回 | 企業経営 ―健康経営―     |
| 第 3 回  | グローバル経済の動向 ―アメリカ―      | 第 18 回 | 企業経営 ―事業継承―     |
| 第 4 回  | グローバル経済の動向 ―EU―        | 第 19 回 | 企業経営 ―高齢者雇用―    |
| 第 5 回  | グローバル経済の動向 ―中国―        | 第 20 回 | 企業経営 ―人財戦略―     |
| 第 6 回  | グローバル経済の動向 ―東アジア―      | 第 21 回 | データサイエンス教育      |
| 第 7 回  | DX による変革 ―デジタル通貨―      | 第 22 回 | 知財創造教育          |
| 第 8 回  | DX による変革 ―CASE―        | 第 23 回 | e スポーツ          |
| 第 9 回  | DX による変革 ―5G―          | 第 24 回 | ポストコロナの三大都市圏    |
| 第 10 回 | DX による変革 ―フィンテック―      | 第 25 回 | スーパーシティ         |
| 第 11 回 | DX による変革 ―ヘルスケア―       | 第 26 回 | サステナブル・ツーリズム    |
| 第 12 回 | DX による変革 ―シェアリングエコノミー― | 第 27 回 | 気候変動の問題にどう取り組むか |
| 第 13 回 | DX による変革 ―産業用ロボット―     | 第 28 回 | 太陽光発電の FIP 導入   |
| 第 14 回 | DX による変革 ―データセンター―     | 第 29 回 | 森林の有効活用         |
| 第 15 回 | 春期のまとめ                 | 第 30 回 | 秋期のまとめ          |
|        |                        | 第 31 回 | 課題レポートの提出       |

## 到達目標

日本および世界経済、産業動向、企業経営、社会生活などの分野における基本的な知識や考え方を理解したうえで、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

## 履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することが基本的な履修条件です。また、本演習では就職活動に向けての各種の指導も実施する予定です。

## 予習・復習

テキストの指定された箇所を事前に読んで理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

## 評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

## テキスト

- 教科書名：『2022 年 日本はこうなる』
- 著 者 名：三菱 UFJ リサーチ& コンサルティング（編）
- 出版社名：東洋経済新報社
- 出 版 年：2021 年 11 月 ISBN 978-4-492-39664-3 本体 1,800 円＋税

授業概要

この演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。演習の進め方は、基本的には専門書の輪読する方法をとるが、新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。秋期の演習は、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

授業計画

|        |            |        |                |
|--------|------------|--------|----------------|
| 第 1 回  | 会計学の意義     | 第 16 回 | 純資産の測定と認識 1    |
| 第 2 回  | 複式簿記の原理 1  | 第 17 回 | 純資産の測定と認識 2    |
| 第 3 回  | 複式簿記の原理 2  | 第 18 回 | 財務諸表の作成と解説 1   |
| 第 4 回  | 財務諸表の読み方 1 | 第 19 回 | 財務諸表の作成と解説 2   |
| 第 5 回  | 財務諸表の読み方 2 | 第 20 回 | 財務諸表の作成と解説 3   |
| 第 6 回  | 資産の測定と認識 1 | 第 21 回 | レジュメ作成と発表の仕方 1 |
| 第 7 回  | 資産の測定と認識 2 | 第 22 回 | レジュメ作成と発表の仕方 2 |
| 第 8 回  | 資産の測定と認識 3 | 第 23 回 | レジュメ作成と発表の仕方 3 |
| 第 9 回  | 負債の測定と認識 1 | 第 24 回 | 各自のテーマの報告と討論 1 |
| 第 10 回 | 負債の測定と認識 2 | 第 25 回 | 各自のテーマの報告と討論 2 |
| 第 11 回 | 収益の測定と認識 1 | 第 26 回 | 各自のテーマの報告と討論 3 |
| 第 12 回 | 収益の測定と認識 2 | 第 27 回 | 各自のテーマの報告と討論 4 |
| 第 13 回 | 費用の測定と認識 1 | 第 28 回 | 各自のテーマの報告と討論 5 |
| 第 14 回 | 費用の測定と認識 2 | 第 29 回 | 各自のテーマの報告と討論 6 |
| 第 15 回 | 春期のまとめ     | 第 30 回 | 秋期のまとめ         |

到達目標

- ・簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に達すること。
- ・発表レジュメの作成及び発表能力の向上

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。
- ・就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

予習・復習

- ・毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。
- ・各期 3 回以上のレポートの提出を求める。

評価方法

レジュメの作成と発表（30%）、課題レポート（30%）、ゼミでの積極性（10%）などを総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：会计学入門
- ・著 者 名：桜井久勝
- ・出版社名：日本経済新聞社
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

グローバル化の進展により、今日では、地球がより小さく感じられるようになってきました。様々な分野において、日本国内のみではなく、諸外国も含め、世界レベルで互いに関連し合う社会となってきたと言えます。ヒト、モノ、カネ、ジョウホウ等が、地球規模で行きかう本格的な時代の到来となりました。各ビジネスにおいても、世界に関する知識が不可欠となってきています。本演習では、世界を視野に入れた重要なキーワードについて理解を深め、今後の勉強や論文作成、就職等に役立つ基礎的知識を習得すること目的とします。

授業計画

|        |                       |        |       |
|--------|-----------------------|--------|-------|
| 第 1 回  | 世界地図を見てみるー日本の位置と大きさは？ | 第 16 回 | 政治    |
| 第 2 回  | 国別人口・少子高齢化            | 第 17 回 | 経済    |
| 第 3 回  | 健康指標（平均寿命、健康寿命等）      | 第 18 回 | 産業    |
| 第 4 回  | 病気の特徴ー生活習慣病、感染症等      | 第 19 回 | 教育    |
| 第 5 回  | 世界の保健・医療・介護システム       | 第 20 回 | 文化    |
| 第 6 回  | 宗教・人種                 | 第 21 回 | アジア   |
| 第 7 回  | 貧困・格差社会               | 第 22 回 | オセアニア |
| 第 8 回  | ジェンダー                 | 第 23 回 | ヨーロッパ |
| 第 9 回  | 生物多様性                 | 第 24 回 | 北欧    |
| 第 10 回 | 自然環境、気候変動             | 第 25 回 | ロシア   |
| 第 11 回 | 休養・ツーリズム              | 第 26 回 | 北米    |
| 第 12 回 | 栄養・食料                 | 第 27 回 | 南米    |
| 第 13 回 | 運動・スポーツ               | 第 28 回 | アフリカ  |
| 第 14 回 | 農業・漁業・畜産業             | 第 29 回 | 北極・南極 |
| 第 15 回 | 資源・エネルギー              | 第 30 回 | まとめ   |
|        |                       | 第 31 回 | 試験    |

到達目標

- ・書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- ・地球上でどのようなことが起きているかを理解できる。
- ・グローバルな視点で物事を考えることができる。
- ・各課題に対し、多面的な視野から考えることができる。
- ・世界各国の実情に関する理解を深められる。

履修上の注意

好奇心旺盛な学生の皆さんを歓迎します。就職に備えて、グローバルな時事問題に対する力をつけましょう。

予習・復習

自身の担当部分についてのレジュメの作成に関する予習はしっかりと行い、他の仲間の発表内容については復習をする習慣を身に付けて下さい。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

- ・教科書名：今がわかる 時代がわかる 世界地図 2022年版
- ・著 者 名：成美堂出版編集部
- ・出版社名：成美堂出版
- ・出 版 年（ISBN）：978-4415113258

## 授業概要

テーマ：マーケティングおよびスポーツマーケティング

この演習は、マーケティングの基礎知識を学び、それらを確実に使えるようにし、その知識をスポーツその他の実際の分野に応用できるようにすることを目指します。

今日、ビジネス実践のための基礎知識として広く普及しているマーケティングの基本概念を身につけ、その用語を使って自ら語るができるようにすることは、これからビジネスを行っていく上で必須の素養であるといえます。本ゼミは、こうした基礎知識を、スポーツなどの分野に広く応用することを目指しますが、マーケティングの応用分野はスポーツに限定されません。ツーリズムであれ、芸術であれ、あるいは食品やファッション製品や耐久消費財などといった伝統的なマーケティングの分野であれ、幅広いマーケティングの応用分野を視野に入れて、マーケティングとビジネス全体、マーケティングと消費者、マーケティングと社会との関係を考えていきたいと思ひます。

こうした幅広い勉強の中から、卒論のテーマを発見できるようになることを期待しています。

## 授業計画

|        |                        |        |                      |
|--------|------------------------|--------|----------------------|
| 第 1 回  | 演習の概要                  | 第 16 回 | 後期演習の概要 ― 基礎から応用へ    |
| 第 2 回  | 基礎概念 (1) マーケティングとは     | 第 17 回 | 応用概念 (1) ブランドとは      |
| 第 3 回  | 基礎概念 (2) スポーツとは        | 第 18 回 | 応用概念 (2) コミュニケーション   |
| 第 4 回  | 基礎概念 (3) 戦略とは          | 第 19 回 | 応用概念 (3) コードモデル      |
| 第 5 回  | 基礎概念 (4) 管理とは          | 第 20 回 | 応用概念 (4) コンテキストモデル   |
| 第 6 回  | 基礎概念 (5) 理念 (コンセプト) とは | 第 21 回 | 応用概念 (5) ストーリー       |
| 第 7 回  | 基礎概念 (6) 4P            | 第 22 回 | 応用概念 (6) 経験価値        |
| 第 8 回  | 基礎概念 (7) 製品 (モノ)       | 第 23 回 | 応用概念 (7) 暗黙知         |
| 第 9 回  | 基礎概念 (8) サービス          | 第 24 回 | 応用概念 (8) 実践コミュニティ    |
| 第 10 回 | 基礎概念 (9) 非営利組織         | 第 25 回 | 応用概念 (9) SNS マーケティング |
| 第 11 回 | 基礎概念 (10) マクロマーケティング   | 第 26 回 | 応用概念 (10) 消費文化       |
| 第 12 回 | ケーススタディ (1)            | 第 27 回 | ケーススタディ (3)          |
| 第 13 回 | ケーススタディ (2)            | 第 28 回 | ケーススタディ (4)          |
| 第 14 回 | ゼミ生報告会 (1)             | 第 29 回 | ゼミ生報告会 (3)           |
| 第 15 回 | ゼミ生報告会 (2)             | 第 30 回 | ゼミ生報告会 (4)           |

## 到達目標

- (1) マーケティングの基本概念と論点を理解すること。
- (2) その基本概念を使って、自らの考え方を表現できるようにすること。
- (3) マーケティングの基本概念を、スポーツその他の幅広い実践的分野に応用できるようにすること。

## 履修上の注意

- ◎演習への出席は必須です。半期5回以上の欠席は不可です。ゼミへの出席を確約できる学生に限り登録を受け付けます。やむをえず演習を欠席する場合は、必ず連絡してください。
- ◎メール、ワード、パワーポイント、チームズなどの使用は必須ですので、使えるようにしてください。
- ◎就職試験に関する指導を行います。例) ニュース検定試験、SPI テストなどを実施します。

## 予習・復習

- ◎事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。
- ◎演習の勉強には多くの時間が必要です。特定のテーマについて、自分で調べ、自分で書く時間を確保しなければなりません。そうした時間を確保できるようにしてください。

## 評価方法

- ◎演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度 (25%)、演習で出された課題の遂行の状況 (25%)、最終期末レポート (50%) によって評価します。
- ◎演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生は、高く評価されます。

## テキスト

テキストは使用しませんが、全体にわたる参考文献は以下の3点です。

- ◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 ― はじめて学ぶマーケティング基礎篇 ― 』大月書店、2003 年
- ◎薄井和夫『マーケティングと現代社会 ― はじめて学ぶマーケティング応用篇 ― 』大月書店、2003 年
- ◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017 年

## 授業概要

3年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため、その際にゼミ生の興味関心を整理し、選択肢となる企業数を広げることを目的とする。そこで、2年次の基礎演習では、企業の経済活動に影響を与えているSDGsを理解し、世界が抱えている諸問題を知ることから始める。そのうえで、業界の全体像を概観し、そこでの企業や商製品などをレポートしてもらう。演習は、ゼミ生が何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行う形式を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

なお、下記の授業計画は2021年度の内容と予定を参考までに示すものであり、2022年度は受講生により業界や企業は変わることになる。

## 授業計画

|      |                                       |      |                           |
|------|---------------------------------------|------|---------------------------|
| 第1回  | SDGs（持続可能な開発目標）の意義                    | 第16回 | 夏季休業中の課題とSPI演習②           |
| 第2回  | 環境問題の理解                               | 第17回 | 娯楽にかかわるサービス業界             |
| 第3回  | 環境問題の事例                               | 第18回 | ①ドワンゴ ⑤LINE               |
| 第4回  | 経済問題の理解                               | 第19回 | ③サイバーエージェント④ルネサンス         |
| 第5回  | 経済問題の事例                               | 第20回 | ⑤ファジコミュニケーションズ ⑥スカパーJS    |
| 第6回  | 社会問題の理解                               | 第21回 | ⑦ぴあ ⑧アミューズ                |
| 第7回  | 社会問題の事例                               | 第22回 | ⑨UUUM ⑩エイベックス             |
| 第8回  | 17の目標の理解①（目標1～4）（繰り返し箇所にはサブタイトル等をつける） | 第23回 | ⑪東映アニメーション ①食品小売A         |
| 第9回  | 17の目標の理解②（目標5～8）                      | 第24回 | ②食品小売B ③食品製造A             |
| 第10回 | 17の目標の理解③（目標9～12）                     | 第25回 | ④食品製造B ⑤食品製造C             |
| 第11回 | 17の目標の理解④（目標13～17）                    | 第26回 | ⑥ドラッグストアA ⑦ドラッグストアB       |
| 第12回 | JALのSDGsに対する取組（第1グループ）                | 第27回 | ⑧自動車A ⑨自動車B               |
| 第13回 | JALのSDGsに対する取組（第2グループ）                | 第28回 | ⑩不動産A ⑪不動産B               |
| 第14回 | グループワーク①（上記を踏まえた討論）                   | 第29回 | グループワーク②（上記を踏まえた討論）       |
| 第15回 | SPI演習①と夏季休業中の課題の説明                    | 第30回 | 3年次のインターンシップに向けて          |
| 第16回 | 第12回～14回のまとめレポート提出                    | 第31回 | 就職を志望する業界に属する企業に関するレポート提出 |

また、回数や内容は目安であり、進度により適宜変更・調整する。また、人数にもよる。

## 到達目標

- ・質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告ができる。
- ・調べた業界の全体像を知るとともに、就職先として希望する業界や企業を発見する。

## 履修上の注意

- ・登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するキャリアセンター主催の行事）などを積極的に指示する。
- ・全員参加の学外授業をする場合がある（他学年・他ゼミと合同のこともある）。

## 予習復習

- ・予習：報告レジュメの作成。
- ・復習：課題レポートの作成。

## 評価方法

- ・演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ、および提出された課題といった平常点を重視して評価する。

## テキスト

- ・特に指定しない。
- ・参考文献：『会社四季報 業界地図』（2022年版）、東洋経済新報社（ISBN：9784492973301）。

授業概要

(1)私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標（夢）実現に立ち向かいます。すなわち、①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断（決定）」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。そこで、基礎演習は、前述①及び②に必要な基礎的、一般的な知識・技術を修得するための指導をします。具体的には、皆さんが就職を突破するのに必要な経済関係の記事等を題材にして、各班ごとに、独自に調査して、発表し議論します。その記事の内容について、現状、問題点、解決策などを読み取り、文章にできる力を養います。

(2)就職試験対策として、一般教養的な知識のチェック・テスト、社会人のマナー等を指導します。

授業計画

|        |                    |        |                    |
|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス（自己紹介、授業進め方等） | 第 16 回 | 就職試験対策：学修、テスト      |
| 第 2 回  | 前提事項の説明：発表資料の読み方等  | 第 17 回 | 佐藤メソッド：事実・基準・効果の学修 |
| 第 3 回  | 第一テーマ：現状、問題、解決策の検討 | 第 18 回 | 第四テーマ：現状、問題、解決策の検討 |
| 第 4 回  | 第一テーマ：議論、調整、まとめ    | 第 19 回 | 第四テーマ：議論、調整、まとめ    |
| 第 5 回  | 第一テーマ：発表、議論、まとめ    | 第 20 回 | 第四テーマ：発表、議論、まとめ    |
| 第 6 回  | 就職試験対策：学修、テスト      | 第 21 回 | 就職試験対策：学修、テスト      |
| 第 7 回  | 佐藤メソッド：事実・基準・効果の学修 | 第 22 回 | 佐藤メソッド：事実・基準・効果の学修 |
| 第 8 回  | 第二テーマ：現状、問題、解決策の検討 | 第 23 回 | 第五テーマ：現状、問題、解決策の検討 |
| 第 9 回  | 第二テーマ：議論、調整、まとめ    | 第 24 回 | 第五テーマ：議論、調整、まとめ    |
| 第 10 回 | 第二テーマ：発表、議論、まとめ    | 第 25 回 | 第五テーマ：発表、議論、まとめ    |
| 第 11 回 | 就職試験対策：学修、テスト      | 第 26 回 | 就職試験対策：学修、テスト      |
| 第 12 回 | 佐藤メソッド：事実・基準・効果の学修 | 第 27 回 | 佐藤メソッド：事実・基準・効果の学修 |
| 第 13 回 | 第三テーマ：現状、問題、解決策の検討 | 第 28 回 | 各テーマの補足            |
| 第 14 回 | 第三テーマ：議論、調整、まとめ    | 第 29 回 | 就職試験対策の補足          |
| 第 15 回 | 第三テーマ：発表、議論、まとめ    | 第 30 回 | 佐藤メソッドの補足          |
|        |                    | 第 31 回 | 期末レポート             |

到達目標

「事実・基準・効果」（以下、「佐藤メソッド」）の学修により、論理的考え方を指導します。具体的には、問題を発見する方法、理由・根拠を見つける方法、さらに、妥当な判断を下すための方法等を身に付けることが目標です。これらの技術を修得する方法を指導します。就職試験に向けて、一般教養のチェック・テスト、社会人のマナーなどを指導します。

履修上の注意

授業への出席はもちろん、宿題の提出期限についても、その遵守は、とても重要です。なぜなら、社会人になったら、会社を欠勤したり、上司の指示に遅れて仕事をする事など、ないように、今から練習しておくのが目的です。自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力が鍛えられます。税に関心のある履修生は、佐藤正勝ゼミをぜひ、履修して下さい。なお、租税法Ⅰ(春期)及び租税法Ⅱ(秋期)を並行して、必ず履修して下さい。

予習・復習

予習は、経済記事等の配付資料について、現状、問題点、解決策等を調べる事、復習は、授業内容のほか、（作成担当ゼミ生から送信された）授業のポイントを、熟読して、授業内容の理解をさらに深めること、です。

授業時間が 90 分の場合、90 分の授業の他に、自宅等での予習復習（その内容は、[理解・訓練・実行]ことです）だけのために合計 4 時間程度を充てることが、文科省により推奨されています。しっかりと予習・復習して下さい。

評価方法

レポート、発表等への配点が 70%、その他チェックテスト(就職試験テストを含む)等が 30%の配点です。

テキスト

- 教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）
- 著 者 名：出版社名：出 版 年（ISBN）：

## 授業概要

本演習では、受講生には2～3名のチームを組んでもらい、講義内の事例研究に対するグループディスカッションや企業分析のレポート作成、ビジネスプラン(以下、事業計画書)のプレゼンテーションなど、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とします。具体的には、下記の通りです。

- ・春期は、会社の社会的役割、組織、経営、雇用形態など企業の基礎的な概要を理解し、2つ以上の企業の企業分析(比較分析)を行う。
- ・秋期は、企業がコロナ禍における変化の激しい時代を生き抜くための新しいビジネスの発想やビジネスモデルの変革について学び、事業計画書を策定しプレゼンテーションを行う。

また、最新の大企業や中小企業の企業分析を取り上げながら、基本的な内容を重視し、受講生の論理的思考力、判断力、プレゼン力、イノベーション力に必要な分析力、発見力や実行力といった能力の向上を図ることを目的とします。

## 授業計画

|        |                   |        |                   |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 第 1 回  | 春期演習の概要           | 第 16 回 | 秋期演習の概要           |
| 第 2 回  | 個人企業と会社           | 第 17 回 | プレゼンテーションの概要      |
| 第 3 回  | 株式会社とは            | 第 18 回 | アントレプレナーシップの重要性   |
| 第 4 回  | コーポレートガバナンス       | 第 19 回 | 新しい事業機会と評価        |
| 第 5 回  | 企業の組織構造           | 第 20 回 | 事業機会の評価           |
| 第 6 回  | 日本型企业組織           | 第 21 回 | アイデアの創出と収益構造      |
| 第 7 回  | 企業と経営戦略           | 第 22 回 | 差別化戦略と SWOT 分析    |
| 第 8 回  | M&A と戦略的提携        | 第 23 回 | 事業計画書の概要と起業       |
| 第 9 回  | 企業の社会的責任とステークホルダー | 第 24 回 | 資金調達とお金の流れ        |
| 第 10 回 | コンプライアンスと社会貢献活動   | 第 25 回 | 成長戦略と出口戦略         |
| 第 11 回 | 企業の財務分析 ①         | 第 26 回 | 新規ビジネスの事業計画書の策定 ① |
| 第 12 回 | 企業の財務分析 ②         | 第 27 回 | 新規ビジネスの事業計画書の策定 ② |
| 第 13 回 | 企業分析のレポート発表と討議 ①  | 第 28 回 | 新規事業計画書のプレゼンと討議 ① |
| 第 14 回 | 企業分析のレポート発表と討議 ②  | 第 29 回 | 新規事業計画書のプレゼンと討議 ② |
| 第 15 回 | 春期のまとめ            | 第 30 回 | 秋期のまとめ            |

## 到達目標

- ・大企業、中小企業の基本的な戦略、現状、問題点、将来性など、事例研究を通じて解釈できる。
- ・新規ビジネスの事業計画書を策定し、プレゼンテーションを行うノウハウを修得する。

## 履修上の注意

- ・ゼミ生の人数や進行度合いによっては、変更・調整することがある。
- ・ゼミではディスカッションを中心としたインタラクティブ(双方向)な方式で進めるので、必ず毎回出席すること。
- ・2022 年日本経済の動向など、就職活動に役立つ指導を行う。

## 予習・復習

- ・各テーマに関連する新聞記事、雑誌記事などをピックアップして、演習内で発表すること。
- ・企業分析のレポートの作成、新規ビジネスの事業計画書の策定及びプレゼンテーションの内容は指示する。

## 評価方法

- ・成績は、出席状況、演習参加への姿勢・貢献度 40%、企業分析のレポート作成、新規ビジネスの事業計画書の策定とプレゼンテーション 60%により評価する。

## テキスト

- ・テキストや参考文献に関しては、必要に応じて演習中に指示します。

## 授業概要

この授業では「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、盛田昭夫、本田宗一郎など数々の名経営者たちの経営哲学に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、参加者全員で議論し、考えを深めていく。この過程を通して、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高めると同時に、資料収集力、整理・分析力、わかりやすく正確に伝える力の育成を目指す。終盤には補充教材を使ってIT業界の現役経営者たちについても調べ、理解を深めていきたい。

## 授業計画

|      |                                   |      |                                                                                    |
|------|-----------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1回  | オリエンテーション(授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明) | 第16回 | 春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する                                                             |
| 第2回  | 世間の「常識」を覆した企業家たち(総論Ⅰ)             | 第17回 | 会社とは何か、なぜ働くのか(総論Ⅰ)                                                                 |
| 第3回  | 逆境を乗り越えた苦労人(総論Ⅱ)                  | 第18回 | 必ず頭角を現す経営者の条件(総論Ⅱ)                                                                 |
| 第4回  | 大賀典雄(ソニー)                         | 第19回 | 土光敏夫(石川島播磨重工業)                                                                     |
| 第5回  | 鈴木敏文(セブン&アイ・ホールディングス)             | 第20回 | 賀来龍三郎(キャノン)                                                                        |
| 第6回  | 本田宗一郎(ホンダ)                        | 第21回 | 八尋俊邦(三井物産)                                                                         |
| 第7回  | 松下幸之助(松下電器産業・現パナソニック)             | 第22回 | 石坂泰三(東芝)                                                                           |
| 第8回  | 伊藤雅俊(イトーヨーカ堂)                     | 第23回 | 大谷米太郎(大谷重工業)                                                                       |
| 第9回  | 市村清(リコー)                          | 第24回 | 樋口廣太郎(アサヒビール)                                                                      |
| 第10回 | 立石一真(オムロン)                        | 第25回 | 中内功(ダイエー)                                                                          |
| 第11回 | 宮崎輝(旭化成)                          | 第26回 | 吉田忠雄(YKK)                                                                          |
| 第12回 | 安藤百福(日清食品)                        | 第27回 | IT業界の新世代経営者Ⅰ(自由選択)ービル・ゲイツ(マイクロソフト)、スティーブ・ジョブズ(アップル)、ジェフ・ベソス(アマゾン)、セルゲイ・ブリン(グーグル)など |
| 第13回 | 議論・発表:以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。 | 第28回 | IT業界の新世代経営者Ⅱ(自由選択)ー孫正義(ソフトバンク)、三木谷浩史(楽天)、南場智子(DeNA)など                              |
| 第14回 | 同上、つづき                            | 第29回 | IT業界の新世代経営者Ⅲ(自由選択)ー任正非(ファーウェイ)、馬雲(アリババ)、馬化騰(テンセント)など                               |
| 第15回 | 春期内容のまとめ<br>春期定期試験                | 第30回 | 秋期内容のまとめ<br>秋期定期試験                                                                 |

## 到達目標

1. 経営史、企業史の基礎知識を習得する
2. 自分の考えや意見を分かりやすく正確に伝える力を身につける
3. 著名な経営者、創業者たちの人生を振り返ることで、自分の人生目標を考える

## 履修上の注意

1. 報告者は毎回分担内容をきちんと準備し、確実に発表すること
2. 授業中の居眠りやスマホいじりはマイナス評価になる(認められる場合は検索が可能)
3. 時間に余裕があるときに、履修者にそれぞれ気になるニュースを話し、自分の見解を述べていただく。

## 予習・復習

報告者でなくても予定の内容を事前に通読すること。

## 評価方法

授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況および発表内容、期末試験を総合して評価する。

## テキスト

初回の授業で指示する。

授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なののでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが、しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。

本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

授業計画

|        |              |        |                |
|--------|--------------|--------|----------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション    | 第 17 回 | 回帰分析の方法 1      |
| 第 2 回  | コンピューターの機能 1 | 第 18 回 | 回帰分析の方法 2      |
| 第 3 回  | コンピューターの機能 2 | 第 19 回 | 回帰分析の方法 3      |
| 第 4 回  | EXCEL の機能 1  | 第 20 回 | 回帰分析の方法 4      |
| 第 5 回  | EXCEL の機能 2  | 第 21 回 | 回帰分析の方法 5      |
| 第 6 回  | EXCEL の機能 3  | 第 22 回 | 回帰分析によるモデル分析 1 |
| 第 7 回  | 表の作成と計算 1    | 第 23 回 | 回帰分析によるモデル分析 2 |
| 第 8 回  | 表の作成と計算 2    | 第 24 回 | 回帰分析によるモデル分析 3 |
| 第 9 回  | 表の作成と計算 3    | 第 25 回 | 回帰分析によるモデル分析 4 |
| 第 10 回 | 表の作成と計算 4    | 第 26 回 | 回帰分析によるモデル分析 5 |
| 第 11 回 | 表の作成と計算 5    | 第 27 回 | 回帰分析による予測 1    |
| 第 12 回 | 適切なグラフの作成 1  | 第 28 回 | 回帰分析による予測 2    |
| 第 13 回 | 適切なグラフの作成 2  | 第 29 回 | 回帰分析による予測 3    |
| 第 14 回 | 適切なグラフの作成 3  | 第 30 回 | 回帰分析による予測 4    |
| 第 15 回 | 適切なグラフの作成 4  | 第 31 回 | まとめ（授業内容の確認）   |
| 第 16 回 | 中間テスト        | 第 32 回 | 期末テスト          |

到達目標

経営現象や経済現象を理解するためには、データを適切に分析し、的確に解釈することが必要である。本講義では、そのために必要とされるデータ処理ができるようになることが到達目標である。さらに、パソコンでデータ処理をすることによって、コンピューターが社会において果たしている役割についても、理解してもらいたい。

履修上の注意

「基礎」演習とはいえ、あるいは「基礎」演習ゆえ、今後の専門科目を学ぶ上で基礎的な思考法を取得するためには、欠席、遅刻などは許されない。目に余るようなら、単位は永久に与えられることはない。

予習・復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

授業概要

- (1) この演習では、様々なテーマを通じて経済学、経営学、会計学の基礎知識と考え方を学習・修得することを指導する。教員が授業を行うスタイルの講義ではなく「演習」であるので、学生自身の事前の調査・研究と教室での発表・討論を主軸に置いてゼミを進めていく。具体的には①専門分野の書籍を読み、現代社会では何が課題とされているのか、解決方法には何があるのかを指導する。②①の後、自分で調査研究を進め、自分自身の論理的な意見をもつ。③②の意見を発表。その後の議論を通じてよりブラッシュアップしていく。
- (2) 経済・経営関係の書籍を基本テキストに取り上げ、内外の社会や経済のしくみを学ぶ演習にしたいと計画している（授業の詳細については、この演習を履修した受講生の関心や勉強希望の分野、学習能力を理解してから最終決定したい）。
- (3) 春期、秋期に各 1 回以上、学外視察を行いたいと考えている（例：証券取引所、日銀、農場、工場等）

授業計画

|        |                             |        |                             |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------------|
| 第 1 回  | ガイダンス；春期の基礎演習の進め方           | 第 16 回 | ガイダンス：秋期の基礎演習の進め方           |
| 第 2 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 1          | 第 17 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 1          |
| 第 3 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 2          | 第 18 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 2          |
| 第 4 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 3          | 第 19 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 3          |
| 第 5 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 4          | 第 20 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 4          |
| 第 6 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 5          | 第 21 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 5          |
| 第 7 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 6          | 第 22 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 6          |
| 第 8 回  | 学外視察への準備                    | 第 23 回 | 学外視察への準備                    |
| 第 9 回  | テキスト・資料を用いた報告と議論 7          | 第 24 回 | テキスト・資料を用いた報告と議論 7          |
| 第 10 回 | 学外視察                        | 第 25 回 | 学外視察                        |
| 第 11 回 | 学外視察の報告会                    | 第 26 回 | 学外視察の報告会                    |
| 第 12 回 | 第 1 回 最終期末レポート発表と討論         | 第 27 回 | 第 1 回 最終期末レポート発表と討論         |
| 第 13 回 | 第 2 回 最終期末レポート発表と討論         | 第 28 回 | 第 2 回 最終期末レポート発表と討論         |
| 第 14 回 | 第 3 回 最終期末レポート発表と討論         | 第 29 回 | 第 3 回 最終期末レポート発表と討論         |
| 第 15 回 | 春期の基礎演習のまとめ<br>（最終期末レポート提出） | 第 30 回 | 秋期の基礎演習のまとめ<br>（最終期末レポート提出） |

到達目標

- 資料の検索方法、プレゼンテーションの方法、レポート資料のまとめ方を学び、習得する。
- 書物から学習する能力を向上させる。
- 問題意識の持ち、問題点、課題点を考察、分析する能力をつける。自分の考えを持つ。
- 発表資料の作成、および発表、プレゼンテーションの能力向上させる（含む、PC ソフト・パワーポイント、エクセル、ワード・PC 操作技術向上）
- 会議や議論における自分自身の能力（ファシリテーター力、論理的思考能力、コミュニケーション能力、ディベート力、会議をまとめ、議論を発展させる能力）を伸ばす。

履修上の注意

- 演習は参加型授業なので、毎回欠かさず出席すること。欠席の場合は事前にメールで連絡。
- 授業では、積極的に発表、発言、質問、議論をすること。
- キャリア形成、就職試験に関する指導もおこないます（SPI テスト、時事問題、インターンシップなど）
- 教員情報は大学 HP、インターネットでキーワード「福永肇」で検索して得てください。

予習・復習

- テキスト、または取り上げるテーマについて演習前によく読み、理解し、発表の準備をする。
- 予習、復習共に書籍、インターネットを活用して調べる。自分で調べる能力、技術を大学時代に取得する。

評価方法

- 研究発表・プレゼンテーション（30%）、演習での討論への発言 & 貢献度（30%）、最終期末レポート（40%）で評価する。

テキスト

- 演習での基本テキストは履修した学生と会ってから最終決定を行いたい。いずれにしても演習では多くの本や、配布する資料を読み込んでいく。
- 例：『人口減少社会のデザイン』 広井良典著、東洋経済新報社。



授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。  
企業経営・経営戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。  
プレゼンテーションとグループワークを行いながら、読解力・コミュニケーション力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図り、発想力や企画力なども身につけるよう指導する。

授業計画

|        |                      |        |                  |
|--------|----------------------|--------|------------------|
| 第 1 回  | 春期概要：経営戦略の事例を学ぶ      | 第 16 回 | 秋期概要：発想力と企画力を鍛える |
| 第 2 回  | ケース 1：ストライプインターナショナル | 第 17 回 | ブレインストーミング①      |
| 第 3 回  | ケース 2：すかいらく          | 第 18 回 | ブレインストーミング②      |
| 第 4 回  | ケース 3：TOTO           | 第 19 回 | 逆ブレインストーミング①     |
| 第 5 回  | ケース 4：幸楽苑            | 第 20 回 | 逆ブレインストーミング②     |
| 第 6 回  | ケース 5：ハイデイ日高         | 第 21 回 | 製品・サービスの修正①      |
| 第 7 回  | ケース 6：パーク 24         | 第 22 回 | 製品・サービスの修正②      |
| 第 8 回  | ケース 7：コマツ            | 第 23 回 | 製品・サービスの組み合わせ①   |
| 第 9 回  | ケース 8：富士重工           | 第 24 回 | 製品・サービスの組み合わせ②   |
| 第 10 回 | ケース 9：富士フィルム         | 第 25 回 | 逆転の発想①           |
| 第 11 回 | ケース 10：ヤマトホールディングス   | 第 26 回 | 逆転の発想②           |
| 第 12 回 | ケース 11：ソニー           | 第 27 回 | 新製品・新サービスの企画①    |
| 第 13 回 | 企業研究①                | 第 28 回 | 新製品・新サービスの企画②    |
| 第 14 回 | 企業研究②                | 第 29 回 | 新製品・新サービスの企画③    |
| 第 15 回 | 企業研究③                | 第 30 回 | 新製品・新サービスの企画④    |
|        |                      | 第 31 回 | 筆記試験等（レポート含む）    |

到達目標

- ・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- ・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。
- ・アイデアの発想法の基本を身につける

履修上の注意

- ・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- ・新聞記事やネット記事を読み、その内容についてプレゼンテーションやディスカッションなどを行い、社会人基礎力を鍛える。これは就職活動にも役立つものである。

予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。  
復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

評価方法

期末試験 50%、レポート 50%

テキスト

授業内で指定する。

授業概要

この演習は、データサイエンスの入門的事項を学ぶことを目標とします。社会における様々な課題を解決するには、その課題に関わる領域についての専門的知識が必要ですが、同時に、その課題に関連する多様なデータを収集し、分析し、どのような性質・法則が成り立ち、どのようなことが起きているかを解明し、それに基づく創造的判断が必要になります。このデータ収集・分析・構造理解と価値創造の一連の流れを体系化した領域がデータサイエンスと呼ばれ、日々進化しつつあります。また、データサイエンスの扱うデータは小規模なものから超大規模のものまであり、種類もさまざまです。2年次の基礎演習では、Excel と統計ソフト R を利用してデータサイエンスの入り口を学びます。3年次の専門演習では AI への応用を含む高度なデータサイエンスを学び、3年次秋から4年次には量子コンピューターを使ったデータサイエンスを学習します。

授業計画

|        |                      |        |                      |
|--------|----------------------|--------|----------------------|
| 第 1 回  | 春期ゼミオリエンテーション        | 第 16 回 | 秋期ゼミオリエンテーション        |
| 第 2 回  | データサイエンスとは何か         | 第 17 回 | 決定木分析 1（考え方）         |
| 第 3 回  | 統計分析ソフト R            | 第 18 回 | 決定木分析 2（分岐基準）        |
| 第 4 回  | R の仕組みと使い方           | 第 19 回 | 決定木分析 3（分類木・回帰木）     |
| 第 5 回  | R によるデータ処理 1（データ形式）  | 第 20 回 | グループによる調査分析テーマの設定    |
| 第 6 回  | R によるデータ処理 2（入出力）    | 第 21 回 | 決定木分析 4（分析例）         |
| 第 7 回  | R によるデータ処理 3（各種計算）   | 第 22 回 | 決定木分析 5（最適木）         |
| 第 8 回  | R によるデータ処理 4（グラフ）    | 第 23 回 | 各種クラスター分析 1（階層的な方法）  |
| 第 9 回  | アソシエーション分析 1（原理）     | 第 24 回 | 各種クラスター分析 2（事例）      |
| 第 10 回 | アソシエーション分析 2（アルゴリズム） | 第 25 回 | 各種クラスター分析 3（非階層的な方法） |
| 第 11 回 | アソシエーション分析 3（データ形式）  | 第 26 回 | ニューラルネットワーク 1（基本概念）  |
| 第 12 回 | 分析のためのデータ管理          | 第 27 回 | ニューラルネットワーク 2（モデル）   |
| 第 13 回 | アソシエーション分析 4（分析例）    | 第 28 回 | ニューラルネットワーク 3（分析例）   |
| 第 14 回 | アソシエーション分析 5（着眼点）    | 第 29 回 | ニューラルネットワーク 4（深層学習）  |
| 第 15 回 | 調査分析のデザイン            | 第 30 回 | グループ研究の成果発表          |

到達目標

データ収集・分析・構造理解と価値創造の一連の流れを理解し、自分で簡単な分析を行えるようになる。

履修上の注意

統計学関係の授業を履修済みまたは履修中の方が好ましいです。プログラミングの学習経験は問いませんが、2年次終了までに Python を学んでおく方が好ましいです。  
欠席や遅刻をすると、学習内容がだんだん分からなくなってきました。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。メールアドレスはオリエンテーション時にお伝えします。また、グループ学習の形を取りますので、各自が自覚をもってグループの運営に取り組んでください。  
就職試験に関する指導を行います。例）社会人基礎力の説明、SPI テストの練習

予習・復習

予習：テキストや配布プリントの指定箇所を精読しておいてください。レポーターになった人は皆に説明できるように事前の学習を進めてください。  
復習：学習内容をよく復習し、体系的理解ができるようにしてください。

評価方法

ゼミへの貢献（学習への積極的関与）40%、グループ研究への貢献60%で評価します。合計 100 点のうち 50 点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が 10 回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

オリエンテーション時に指定します。

授業概要

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。現代の経営に必要な 経営資源（人、モノ、金、情報）を有効に活用して管理運営することです。その1つである情報を収集し分析し活用することが、企業経営の効率化と競争力の強化になります。この授業の目的は、情報技術について学び、その活用方法を学ぶことです。ですから、最初にコンピュータの基礎や情報通信技術を学び、企業でどのようにコンピュータが使われているかの事例を勉強します。また、発展目覚ましい情報通信技術の最近の注目技術としてAI(人工知能)、IoT（Internet Of Things）も紹介します。

授業計画

|        |                    |        |                  |
|--------|--------------------|--------|------------------|
| 第 1 回  | 情報とは何か、情報化社会について   | 第 16 回 | AI(人工知能)とは       |
| 第 2 回  | ハードウェアの概要 1        | 第 17 回 | AI がもたらす社会の変化    |
| 第 3 回  | ハードウェアの概要 2        | 第 18 回 | AI の活用事例         |
| 第 4 回  | ソフトウェアの概要          | 第 19 回 | AI を触ってみよう       |
| 第 5 回  | ソフトウェアの種類          | 第 20 回 | クラウドコンピューティング    |
| 第 6 回  | コンピュータによる仕事の処理形態 1 | 第 21 回 | クラウド AI          |
| 第 7 回  | コンピュータによる仕事の処理形態 2 | 第 22 回 | クラウド AI を動かそう    |
| 第 8 回  | 社会や個人での情報活用 1      | 第 23 回 | クラウド AI の演習 1    |
| 第 9 回  | 社会や個人での情報活用 2      | 第 24 回 | クラウド AI の演習 2    |
| 第 10 回 | 情報ネットワークの概要 1      | 第 25 回 | クラウド AI の演習 3    |
| 第 11 回 | インターネットとは          | 第 26 回 | グループで AI を動かそう 1 |
| 第 12 回 | インターネットの活用         | 第 27 回 | グループで AI を動かそう 2 |
| 第 13 回 | IoT（モノのインターネット）とは  | 第 28 回 | グループで AI を動かそう 3 |
| 第 14 回 | IoT と社会の変化         | 第 29 回 | 発表会              |
| 第 15 回 | まとめ                | 第 30 回 | まとめ              |

到達目標

この授業は、ICT（情報通信技術）を企業経営にどのように活用しているかを学ぶ授業です。  
この授業の目的は、情報通信技術について学び、理解し、その活用方法を学ぶことです。学習方法として、知識の学習と演習で使ってみることで理解を深めます。

履修上の注意

前半は、座学を中心に ICT の知識を深める勉強をします。後半は、演習を取り入れて学習しますので、ノート PC またはタブレットを使用することになります。また、就職試験に関する指導を行います。例えば、ニュース検定試験、SPI テストなどを実施します。

予習・復習

各講義の内容について事前事後に自分でインターネットや本を基に学習することが望ましい。

評価方法

演習時間での参加や積極的な発言とレポート提出及び演習の成果発表などで評価する

テキスト

- 教科書名： 別途 連絡します。
- 著 者 名：
- 出版社名：
- 出 版 年：

授業概要

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                           |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| <p>本演習は、経済と経営は相互に不可分であるとの認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体現したものです。国内外における銀行、メーカー、商社 3 業種での講師の勤務経験を生かして講義を行います。</p> <p>基礎演習では、教養演習や 1 年次の講義を通して修得した経営学と日本経済の知識をさらに発展させることを目的としています。前期は日本経済の特質を財政、貿易、金融等について考察し、後期は経営学の知識、基本文献に基づいて確固たるものにします。前期、後期の最終講義は演習のまとめを行います。</p> |                           |
| <p>授業計画</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |
| 第 1 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | ガイダンス ―目的、方法、評価等―         |
| 第 2 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本の財政(1) ―財政学の基本概念と財政の役割― |
| 第 3 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本の財政(2) ―財政の仕組み―         |
| 第 4 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本の財政(3) ―財政の歴史―          |
| 第 5 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本の貿易(1) ―貿易論の基礎―         |
| 第 6 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本の貿易(2) ―自由貿易原則と制度対応―    |
| 第 7 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本と国際金融(1) ―外国為替市場―       |
| 第 8 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本と国際金融(2) ―国際通貨体制―       |
| 第 9 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 日本と国際金融(3) ―国際金融実務―       |
| 第 10 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 日本の農業 ―日本農業の特徴と農業政策―      |
| 第 11 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 日本の地域経済(1) ―地域経済学の基礎―     |
| 第 12 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 日本の地域経済(2) ―地域経済の活性化―     |
| 第 13 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 日本の環境問題 ―環境経済学の基礎―        |
| 第 14 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 日本の社会保障 ―社会保障制度の概要―       |
| 第 15 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 演習のまとめ                    |
| 第 16 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 組織の構成                     |
| 第 17 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 組織の設計                     |
| 第 18 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 企業統治                      |
| 第 19 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 資本の構造                     |
| 第 20 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 雇用の構造                     |
| 第 21 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 経営戦略の基礎                   |
| 第 22 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 競争と差別化                    |
| 第 23 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 経営資源の配分                   |
| 第 24 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 人材マネジメント                  |
| 第 25 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | インセンティブ                   |
| 第 26 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 計画と管理                     |
| 第 27 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 経営理念                      |
| 第 28 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | リーダーシップ                   |
| 第 29 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 経営者の職能                    |
| 第 30 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 演習のまとめ                    |
| 第 31 回                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 筆記試験等（レポート含む）             |
| <p>【注意】対面授業、オンライン授業に関わりなく、課題レポートは 30 回全て提出すること。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |                           |
| <p>到達目標</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |
| <p>本演習では、教養演習や 1 年次の講義を通して修得した経済学・経営学の知識をさらに深めることを目的とします。経済学の基礎や日本経済の特質を踏まえて経営学を体系的に学び、専門演習に向けた確固たる基礎学力を身につけることが課題となります。</p>                                                                                                                                                                                                   |                           |
| <p>履修上の注意</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                           |
| <p>演習は講義を中心に進め、テーマごとに議論する方式を採用します。履修者は積極的に議論に参加することが求められます。より実感をもってテーマを理解できるよう講師の実務経験を交えた講義を行います。</p>                                                                                                                                                                                                                          |                           |
| <p>予習復習</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |
| <p>前期、後期ともに復習中心とした知識修得を目指します。演習で修得した知識をさらに深めるためにも、経済、経営関連雑誌や新聞に注意深く目を通すことが求められます。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |                           |
| <p>評価方法</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |
| <p>前期、後期ともに毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                        |                           |
| <p>テキスト</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                           |
| <p>テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                           |